

第2回 川崎市多摩川プラン推進会議

議事録

■開催日時：2017年（平成29年）2月9日（木）15:00～

■開催場所：川崎市役所第3庁舎18階第1会議室

■出席者（敬称略）

会長	鈴木 誠	東京農業大学 教授
副会長	吉富 友恭	東京学芸大学准教授
委員	齋藤 光正	NPO法人多摩川エコミュージアム代表理事
委員	佐藤 信雄	味の素株式会社
委員	加藤 純一	市民公募
委員	山下 亜希子	市民公募
委員	梅原 七重	市民公募
委員	竹本 隆之	国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所副所長

■議事録

1. 開会

2. 緑政部長あいさつ

3. 会長あいさつ

4. 議事

- (1) 平成28年度実施事業報告
- (2) 意見交換
- (3) その他

5. 閉会

以下、事務局による資料確認、説明

平成28年度実施事業報告

【鈴木会長】 ありがとうございます。事業報告を受けたということで、次に皆さんの意見を交換するということがいいですね。

では、皆さんからご質問とかご意見とか、限られた時間ですからどんどん言わないと。

【梅原委員】 どんどん言っていていいですか。

【鈴木会長】 どうぞ、ぜひ。まず口火を切ってください。

【梅原委員】 事業を説明いただいたんですけれども、ほとんど私の見る限りは多摩川の丸子橋から北のほうばかりなんですね。私の目についたのは、南のほうでは御幸公園が入っただけで、あとはチラシにあった、今度2月にやる水辺の楽校シンポジウム。これのチラシが関係しているだけで、今までの事業はほとんど南の地区には関係ないんですね。すごく寂しいですね。海沿いのほうまでの事業がもうちょっと入っていると、わくわくして聞けたんですけれども、同じ多摩川でも他人事みたいな感じで、もうちょっと早く進めていただきたいなと思います。

【事務局】 すいません。来年度ぐらいからわくわくしていただけるかなと思っています。といいますのは、先ほど説明した丸子橋エリアはちょっと時間がかかってしまいましたが、その部分が今年でほぼ終わりました、来年度から幸区のガス橋から多摩川大橋までの間の古市場、上平間地区と通称呼んでいるほうにハードに関しては整備の重点を移していきます。

【梅原委員】 じゃあ、29年度からはちょっとは期待できるんですね。

【事務局】 ちょっとはわくわくしていただけると思います。

【梅原委員】 分かりました。

【事務局】 御幸公園につきましても、御幸公園は公園でございますが、多摩川と接している唯一の公園という中で、幸区のほうがやっている梅香事業とも連携を深めながら、あと、あそこには河川財団さんの交流センターというちょっとコーヒーが飲めたりするようなものもございまして、そことも連携を深めていまして、いい拠点になればと今頭の中で考えているところです。

【梅原委員】 私は、もっと多摩川のことを宣伝したいんですけれども、これを見る限りでは多摩川はすごくよくなったから行ってみましょうよと言えないんですね。それがすごく残念です。ここにきた意味があるのかなと。

【事務局】 分かりました。これからよくなるので、2～3年でかなり変わってくると
思いますので、そのような形で宣伝していただければ。

【梅原委員】 以上です。

【鈴木会長】 他はいかがですかね。ご質問、ご意見をいただけたらと思いますが。

【加藤委員】 すいません、じゃあ。

【鈴木会長】 どうぞ。

【加藤委員】 事業報告書は3月に出すということなんですよ。いつも言っている
んですけども、こういうグラフで人数の推移がすごくよくなったな、素晴らしいなと思っ
て見ていたんですけども、誰が主催しているのかというのが分かるものと分からないも
のがあるんですよ。確実に明記されているものは明記されているんですけども、事業報
告書なので、誰が主催しているのかということは小さくでもいいから確実に書いていただ
いたほうがいいと思いました。

あと、これは事業報告書に直接かかわることじゃないんですけども、それを書いてい
ただくことによって何が起こるかという、宣伝の方法とか、こういうことをやったんだ
というのを事業報告書を見て、市民の皆さんもこういうことをやっていたんだとか、ごみ
拾いに行きたかったのに知らなかったとかあると思うので、主催者が分かったりとか、ど
こに記載されていますというのがあると、多分これを見た人が次に関心を持ってもらって、
アクセスをして、参加しようということになると思います。主催者とか情報が記載されて
いることとかも、次につながるようにしていただいたほうが、多分事業報告書としてはコ
ンプリートになるのではないかなと感じました。

以上です。

【鈴木会長】 ありがとうございます。そのほかはいかがですか。

【吉富副会長】 今のに少し関連して、今おっしゃったように、せつかく報告書を出す
ので、いろいろな人にこれからこういう活動に参加してもらったり、興味を持っていただ
ければと思います。

それで、具体的にいろいろな来場者数ですとか参加者数も書かれていてよく分かるん
ですけども、参加者に対してどんな影響があったとか、反応みたいなものが少しでも触
れられていると、例えば安全講習ならどういうことに注目したとか、興味、関心を持っ
ているとか、例えば美化活動でしたらどういうごみが多かったとか、そういうことがあ
れば次のステップへの課題とか期待というものも少しここに表現できて、次にも役立つ

じゃないかなと感じました。

以上です。

【鈴木会長】 今のはどうですか。

【梅原委員】 ごみの量が3.27トンというのはイメージができないんですけども、多摩川のごみの中にどんなごみが一番多くあったのかなというのがすごく知りたいです。例えば缶だったのか、お弁当箱だったのか、紙くずだったのか、市民の人が捨てている割合とか流れ着いてくるものとか、そういうものを総合して、どんなごみが多かったから、自分たちがそこに行ったときに気をつけましょうみたいなことになるじゃないですか。量をトンだけじゃなくて、もっと具体的なもので表してくれると、とても分かりやすいと思います。

私も参加したことがあるんですけども、食べ残しのものとかビニール袋がすごく多いです。鳥たちが飲んじゃったり食べちゃったりというのものもあるし、なるべく市民の人が意識してごみを捨てないように、持ち帰るように、市民に対する注意事項みたいなもの、何が落ちていたかということで自分のこととして分かると思うんですよ。3.27トンあったのかというんじゃなくて、誰が何を落としているんだろう、自分たちも気をつけなきゃというふうに注意を呼びかけるのに、具体的な内容が必要なんじゃないかなと。トンだけ言われてもとんと分かりません。

【齋藤委員】 この報告はいいですよ。だけど、これは年に1回しかやってないんですよ。実施している団体としては、うちもそうなんですけれども、それぞれのテリトリーなりエリアがあって、月に1回とか、場合によっては週に1回とか、日常掃除をしましょうとか、それぞれやっているはずなんです。だから、地区によってすごくごみの量の差があると思うんですね。

だから、例えば二ヶ領せせらぎ館の周りなんかはごみ一つ残ってないですよ。バーベキューに来てみんな持ち帰ってくれますし、非常にきれいなものですよ。一回来て見ていただければ分かるんですけども、落っこったやつは、あめのくずかあめの紙かたばこ。それ以外、粗大ごみは落っこってないですね。それは、日ごろその地区がいかに清掃しているかですよ。だから、中原の丸子橋や二子橋もそうでしょうけれども、地区によっては確かに汚いです。登戸も、例えば小田急線の下、あの辺なんかは汚いですね。それは、月1回大掃除しているからきれいにはなっているんですけども、流域別にかなり差があります。

【鈴木会長】 先ほどご質問のごみの種類のあれは、大体カウントしているんでしょう。どこかで公表してない？

【事務局】 うちの環境局のほうのごみ処理の際に、空き缶かペットボトル、もしくはその他ごみというのは、一般的に分けて収集しますので、おそらくその分量というのは量れるかと思います。

【鈴木会長】 あと、こういうときに、小学生とか子どもたちに参加してもらって、その子たちに何が合ったか調査をしてもらおうの。いつもたばこの吸い殻が数としては多くなるんだけど、そうやってもらうと、子どもたちが拾うのもあれなんだけど、一体ごみがどんなものがあるかというのを実感して、子どもたちがカウントというので実績になって、そうすると、子どもたちがカウントしたごみはこれだけあって、粗大ごみがこれだけあったというのが分かる。環境学習というのはそういうのもあるから、やり方としてはそういうのもいいよ。

【梅原委員】 ごみの量で学習できればいいですよ。

【吉富副会長】 実際例えば善福寺川だったら小学生が清掃して、種類を数えて、大人のごみが多いという結果を出して、そこから大人に呼びかける看板を作り始めたりという、ごみ拾いだけじゃなくて、次に発展するような動きが出てきたり、芝川も栄東高校というところがずっとやっているんですけれども、そこで自分たちにできることとか、ごみを減らしていくためにはどういうことがあるのかというのを考えて発表するとか、そんな事例もあるので。

【梅原委員】 そこまで突っ込まないと、せっかくこういう表が出ていても、それを何に使うの、どういう方向に持っていけばいいのみたいなのがこの表だけじゃ分かりにくいなど。データとしてはいいと思う。

【吉富副会長】 多分参加した人も、これが多かったのかと後で見て、結果発表みたいな感じで楽しいと思いますけどね。

【鈴木会長】 ごみの量はこれで収まるわけないもん。だって、国交省が業務でやっているごみ回収だと、もっと桁数が違うぐらいでしょう。

【梅原委員】 あと、植え込みの中にもいっぱい落っこっているんですよ。多分車に乗った人がぼんと放るんだと思うし、そういうマナーの問題もきちんと大人が把握しているほうがいいなと思います。

【竹本委員】 参考にですが、国交省に関しては、川崎市だけじゃないんですけれども、

多摩川全体で青梅までやっています。その中で、ごみはどこが多いとか、そういうマップとかで一応公表はしています。大体毎年同じようなところなんですけれども、ただ、その程度ですね。種類までは多分出してない。

【鈴木会長】 毎年同じところというのは、川崎市内ですか。

【竹本委員】 川崎市内というか、ほかもありますけれども、大体ごみが多いところというのは毎年同じようなところになっていますね。資料を持ってないので、今すぐにどこだと言えませんけれども、そういうのはごみマップというので多摩川だけじゃなくてほかの川も含めて公表していますので。

【鈴木会長】 ありがとうございます。そのほかは。

【佐藤委員】 よろしいでしょうか。

【鈴木会長】 どうぞ。

【佐藤委員】 報告ありがとうございました。質問と意見がありまして、内容のところは先ほどもあったように、写真とか結構分かりやすくまとめていただいていると思いました。

質問なんですけれども、6ページのバーベキュー対策のところ、不法投棄、ごみなんかを住民のご迷惑にならないような形で看板を設置しましたということなんですけれども、我々の地域なんかでも、表示をしても結構捨てていく人とかいるんですけれども、設置によってレビュー的に結構減ってきて、注意喚起で捨てないようなマナーが守れるようになってきているのでしょうか。もしなっていないようであれば、表示だけで解決できればいいんですけれども、そうじゃなくて捨てる形があれば、ずっとそのまま人のモラルにお任せしていてもだめな場合は、先ほどのいろいろな地域によってきれいになっているところだったりとか、そういうところを水平展開しないといけないのかなと思ったので、その辺はどうなのかなと思いました。

【事務局】 この看板を設置したことによって、実際にごみが減ったかどうかとなりますと、それほど大きな変化はなかなか出ていないとは思いますが、地域の方々へのヒアリングまでは出来ていません。

【佐藤委員】 多分一番迷惑されているのは地域にお住まいになっている方だと思うんですよね。結果的に我々もそうなんですけれども、やって、その方々にヒアリング等という状態かお聞きしたりして、全部をゼロにはできないんですけれども、そういう施策を取っていくことによって、地域の方にも協力を求めるところとかあると思うんですよね。

そういう形をしていかないと、やっただけで、形だけで終わってしまっちゃっていると、多分実際に減らないで、捨てる人もずっと捨てていると、捨ててもいいんだという形になってしまうところがあるのかなと思いましたので、そのレビューとか、それがだめだった場合は施策を地域の方々と協力しながらやっていかないといけないのかなと思いましたので、まずそこを1点質問と、意見なんです。

あともう一点なんですけれども、多摩川は私が昔見ていたときには結構汚いなというイメージが、今はアユとかウナギなんかは遡上してきて非常にきれいになってきているところがありますよね。私なんか、多摩川の周辺に工場があるので、今来られる方なんかにも、そういう環境の見学のときなんかにも触れさせてもらうところがあるんですね。もちろん多摩川の水を利用させていただいて、多摩川にお返ししているときもそういう配慮をしながらやっているところとか、地域全体で多摩川を守っていこうということで、水の環境も大分よくなってきているところがあるので、そういったところをよりPR、発信していてもいいのかなと思いました。

若い保護者の方は、川は危ないからあまり近づくなと。おじいちゃんとかおばあちゃんの代は、昔はあそこでいろいろ捕ったりとか遊びに行ったりしたんだよと言うんですけれども、今はそういう家族構成じゃないので、なかなかそういうところが伝わりにくいところもあるので、日本でも屈指のきれいな都会を流れている川で、アユとかウナギが戻ってくるというのはあまりないところもあるので、きれいになった魅力的な川なので、そういうところをもうちょっとPRしていてもいいのかな、なんて思いました。

以上です。

【鈴木会長】 ありがとうございます。

【竹本委員】 今に関連して、多摩川はきれいになったというので、おっしゃったように昔は川に近づくなというのがあったんですが、今はぜひこんなにきれいになった川を活用してほしいということで、毎年7月に夏休み多摩川教室というのを川崎の二子新地でやっています。去年は小学校に事前に案内を配ったんです。それは結構効果があって、おとしは三百何人だったのが、去年は600人とか倍以上。

【事務局】 すごく盛況でしたね。

【竹本委員】 すごく大盛況で、川に来たら、そのときライフジャケットを去年はできたんですよ。

【事務局】 そうです。通称河童の川流れというのかな。あのライフジャケットを着て。

【竹本委員】 川に触れてもらうために、水生生物の調査とかライフジャケットを着るとか、そういう体験をするコーナーもあって、それは結構大盛況で、まず川に来てもらうという取り組み。きれいになったというのはその後に。多分来てもらったら、そこでみんないろいろ説明したいことがあるので、今後もそういう取り組み、作戦を考えて、どうやったら人が集まるかというのをうまくやっていけばいいのかなと思っています。

【事務局】 多摩川でも、川崎河川漁業協同組合という漁協さんが最近積極的にそういうイベントのときに絶えず参加して、先ほど言いましたけれども、無償で多摩川産のアユを焼いて配ってくれたり、現実として子どもたちも初めて多摩川のアユを食べたとか、そういう地道な活動、PRを通じながら、ちょっと前の泡がぶくぶくというイメージじゃなくて、川は危険でもあるけれども、こういう楽しみもあると両方を教えていって、身近なものにしていければという形で、今日来ている山下さんとか齋藤さんとか、流域で活動していただいている方の協力を仰いでいるところは非常に多いんですけれども、かなりよくなっているかなと。

【齋藤委員】 ここに出ている子どもたちが多摩川と触れ合っているんですが、この人たちは大体が歩いて多摩川に行けるぐらいの距離の人たちなんですよ。宮前区とか山のほう、横浜寄りのほうは、学校が52校あるけれども、多摩川を知らない子どもたちがかなりいるんです。1,000人ぐらい二ヶ領せせらぎ館に遊びに環境学習で学校が連れてくるんですけれども、連れてきてくれる先生はいいんですよ。連れてこない先生がいっぱいいるんですよ。だから、本当の多摩川の良さというのは連れてこないと分からない。そういうことを教育委員会にもお願いしているんですけれども、本当に身近に多摩川に遊びに来られる人は数%にすぎないような気がしますね。

それからもう一つは、お父さん、お母さんたちの時代は汚かったでしょう。だから、お父さん、お母さんたちは多摩川へ行くなという教育を受けていますから、子どもたちを誘って多摩川に行こうという家庭環境じゃないんですよね。おじいちゃん、おばあちゃんがいれば、まだ行こうかといって孫を連れてくるかもしれませんけれども、だから、二ヶ領せせらぎ館もお孫さんを連れておじいちゃん、おばあちゃんに来る。これは、本当に僕らとしては宝物なんです。

おじいちゃん、おばあちゃんに昔どうだったということを聞くんですよね。そうすると、かなり勉強になるんですけれども、お父さん、お母さんたちは汚い多摩川しか知らないから、あんな汚い、汚れた、臭いところに行くなという教育を受けているから、子どもには

多摩川なんてきれいなものという感じですよ。実際に二ヶ領せせらぎ館に来て、多摩川で遊んだ子どもたちが、多摩川にお魚がいるんだよ、鳥がいっぱいいるんだよなんていうことをお父さん、お母さんに話すと、びっくりしているようですね。お手紙をいただくと、そんな感じを受けます。

【加藤委員】 齋藤さんがおっしゃったような意見もあると思うんですけども、私は田舎から出てきてこっちに20年以上住んでいますけれども、別に多摩川は汚いとか思っていないんですよ。だから、誰がどう思うかというのはこの場では別として、子どもさんとか来た親御さんたちがきれいだねとか、すごいねとか、魚いるねとか、あと、捕ったアユは食べられるんですか。

【事務局】 食べられます。私も何度も食べて。

【加藤委員】 私の感じだと、昔泡がぶくぶくというのは知識としては分かるんだけども、そうじゃなくて、アユが復活したこともここに来て分かったんだけども、捕って食べられるぐらいきれいなんだというのはすごく良いことだと思うんですよ。だから、そっちを宣伝していきましょうという話のほうが、みんながこう思っているからだめでしょうとか、それを変えましょうというのは、宣伝していけばいいだけの話だから、むしろここでライフジャケットを着せて何かイベントをやったけれども30人とか、私からするとむなしい数字というか、もっと宣伝すれば、小学生とか取り込んでやればできるんじゃないのかなと思うので、取り組み自体はものすごくいいと僕は思うんですよ。これは本当に世界に誇れる事業だと思うので、今後は宣伝だけ。だから、みんながどう思っているかというのは別として、いいものだからどんどん宣伝しましょうみたいなプラスの感じにしていけばいいんじゃないかなと思います。

【梅原委員】 課題は結果及び宣伝ですね。

【加藤委員】 それで、僕、本当に最近思うんですけども、この間もテレビを見ていたら、多摩川にアユが遡上してきた。それで、漁協か何かの人がNHKの取材を受けるときも、みんな東京側なんですよ。

【梅原委員】 そうそう、寂しいのよ。

【加藤委員】 何で川崎がいつも。あと、メールしたかもしれないけど、去年ナショナルジオグラフィックとかで多摩川が出ても、東京側の人のコメントばかり出るんですよ。

【事務局】 そうですか。

【梅原委員】 川崎市はすごくイメージが悪いですよ。向こう側の東京都はすごくいい

のに、こっち側はイメージが悪い。

【加藤委員】 そうそう。多摩川は川崎も東京も一緒でしょうと思うんだけど。

【事務局】 こちらは気にしているからかもしれないけれども、川崎漁協の人も結構頻繁にテレビに出ているんですけどね。

【加藤委員】 出ているんですか。

【梅原委員】 見たことないな。

【加藤委員】 多摩川イコール東京みたいなイメージがあって、もったいないと思って。

【事務局】 確かに年間500万匹ぐらい今遡上しているみたいなんですけれども、そのカウントをしているのが東京都の島しょ何とかという水産課みたいなところなので、その情報だとそっちへ行っちゃうのかもしれない。

【加藤委員】 なるほど。そのコラボとかできないんですか。

【事務局】 川崎の漁協の方も、理事の方が相当出ているんですけどね。

【加藤委員】 知らなかった。すいません、それは私の認識不足でした。

【梅原委員】 稚魚は流したけど、遡上してきたというのは知らないわ。

【齋藤委員】 多摩川でアユが遡上するというのは、要するに海がきれいになったということなんですよね。それを強調してもらいたい。僕らは、子どもたちにはそういう教育をしているんですけども、多摩川の河口に流れ着いた、集散したアユが育ってきて、それが4月に上ってくるんだよと。だから、多摩川よりも河口の東京湾がきれいになっているんだということを強調しているんですけどね。だから、今の中で河口を少しPRしてほしいね。

【事務局】 あと、これには書かれてないんですけども、今若い先生はそういう体験をしたことがないような方もいらっしゃるみたいなので、今年度川崎市内の全部の小学校に環境学習プログラムという先生用のマニュアル本を配ったり、あと、1万何千人の川崎市内の小学校4年生全員に、クリアファイルで多摩川のアユの一生というのがあって、今日持ってくればよかったんですけども。

【鈴木会長】 そういうのをやりましたというのはここに入っているの。

【事務局】 入っています。そういうのをお配りして、それを数年続けていくと、今の世代の小学生は全部アユ博士になれるみたいな、ちょっとしたそういうことも今年度からやり始めています。

【加藤委員】 すばらしいですね。

【鈴木会長】 5年、10年たつと、そういう世代が育ってきて、いいイメージになってくるんですよ。

【事務局】 こちらのA3の縦判の資料の2枚目の真ん中よりちょっと下の項目15をごらんいただくと、その50番、「市民団体や学校などにおける環境保全活動等への支援の推進」の中の3番目の項目で、「指導者や教員が環境学習に取り組む場合などの一助になるよう、『環境学習プログラム集かわさき』を市内全小学校に配布した」、もう一つ、その次の項目で、「多摩川アユの啓発として、クリアファイルを市内の小学校4年生全員に配布した」という取り組みもやっております。

イメージとしては、多摩川プランの6ページに川崎多摩川アユマップ2の作成なんて前に作ったやつに書いてあるんですが、これのバージョンアップ版のクリアファイルのものを1万5,000部ぐらいかな、市内の4年生全員についてこの間お配りしたんですね。

【加藤委員】 われわれにもください。

【事務局】 すいません、ご用意しなかったんですが。

【加藤委員】 一番宣伝するんだから。

【事務局】 次にぜひ持ってきます。

【齋藤委員】 今日持ってくればよかったですね。

【鈴木会長】 僕の疑問は、「多摩川は今」の3ページ目のこれはアユなの？

【事務局】 それはアユです。

【鈴木会長】 渡しのところに何でこれが出てくるのかずっと疑問なの。ほかは大体内容と合うんだけど、渡しが復活というところに魚を焼いているのがどうしてあるのか分からない。これは渡し体験のときに焼いたの？

【事務局】 渡し体験のときに、こちらの河川敷のほうでこんなことを漁協さんがやって、来た方に無料でお配りしたりしています。

【梅原委員】 こんなことどこでやってるの。全然知らない。知らせてほしい。

【事務局】 もうちょっとPRします。

【加藤委員】 一言でいいから、食も文化なので、食文化、食育もやっていますみたいなことにしておけば。多分ごらんになって、何でこれ急に焼いているのみたいな。

【山下委員】 これが丸子の渡しのチラシなんです。今日持っていたんですけど。

【鈴木会長】 アユの塩焼きと書いてある。

【山下委員】 そうなんです。あと、シジミ。

【鈴木会長】 手長エビのから揚げ。

【梅原委員】 シジミも採れるの？

【山下委員】 食べられるんです。

【事務局】 幸区よりもっと下流の大師で採れたシジミ汁。

【佐藤委員】 シジミは下流で採れますよ。採っている人もいます。

【梅原委員】 私は、昔多摩川じゃなくて日本橋の隅田川で採りましたよ。

【山下委員】 そうなんですか。

【加藤委員】 味の素のテトラポットのところで手長エビが捕れますよ。

【佐藤委員】 捕れますし、あと、もうちょっと下流のほうだとシジミだったり、あと、アシのところにはすごく水鳥なんか来て、かなり自然の宝庫です。

【梅原委員】 知らない。

【齋藤委員】 すごいですよ。冬鳥が1,000羽ぐらい。

【佐藤委員】 知ってもらいと、だんだんそうなんだなとなる。

【山下委員】 これだけ見たら分からないですよ。

【梅原委員】 知りたい。知ったら行くもん。

【事務局】 来年度、分からないですけれども、こういう会議もよろしいかと思うんですが、できたら、現場全部というわけにはいかないんですけれども、例えば来年はこころ辺に集合して、河川敷、多摩川を見てというのもどうかなと今考えております。

【梅原委員】 行ってみようと思う。行ったことないもん。知らなかった。

【事務局】 人工物ができている下流のほうでも、よく見るとかなりシジミとかハマグリとかいるんです。結構自然は力強いなど。

【梅原委員】 でも、私たちはこういうのに参加しているからいろいろな知識が入るんですけれども、多分一般のピープルは全く知らないと思います。

【事務局】 そうですね。やっとなんかこういう形になってきたので、これから一般の方にも広めていけるのかなというふうに。

【鈴木会長】 これで皆さんからいろいろとご意見をいただいたんですけれども、来年度、29年度の取り組みで何か特筆すべきようなところがあれば。今みたいなご意見をいただいたところは反映していただくわけでしょう。それと、下流のほうは少し重点的にこれからやっていくと。

【事務局】 そうですね。

【梅原委員】 興味を持って見ているんですけども。

【事務局】 幸区のほうに整備を移行していきますので、梅原さんはお楽しみにということと、あと、トイレの更新とかはまだできてない部分があるので、アメニティーの向上は引き続きやっていきます。あと、来年ということではないんですが、今後長いスパンで考えたときに、多摩川だけというわけではないんですが、多摩川をよくしても、街中、市街地とのアクセスも含めた連続性といいますか、それはハード的な部分もあるでしょうし、個人個人の気持ちというか、そういうのもあると思うんですが、要は多摩川をより身近なものに感じていただけるような拠点づくりを進めたいですね。

【鈴木会長】 そういうのは緑の基本計画のポイントの一つですね。

【事務局】 そういうところも考えていきつつ、将来的に現実のものにしていくと、先ほど委員の方がおっしゃったように、多摩川を利用している人は多摩川に沿った周辺の人だけじゃなくて、宮前区とか麻生区とか多摩川から離れている地域の市民の方も多摩川を身近に感じていただけるような、絶対的な距離は変わらないんですけども、アクセスのしやすいイメージづけというものができればなど。そこら辺は今後の課題として捉えています。

【梅原委員】 アクセスが悪いですね。私たちの地区はバス便がないから、行けないんですよ。

【事務局】 市の職員が言うのもあれですが、多摩沿線道路と多摩川の作りが変化しづらいですね。

【梅原委員】 しづらいですね。車を停めるところがないし、バスでも行けないし、歩くと駅からすごく遠いし、多摩川にいらっしゃいといっても、なかなか行くアクセスがない。

【事務局】 そうですね。根本的な、大きな課題なんですけど。

【佐藤委員】 一遍今後のところでなんですけども、ちょっと離れるんですが、殿町のところに今度羽田のところで橋が架けられていきますよね。その橋によって多摩川の河口のところが変化するので、生態系だったりとか、そういう配慮もしながら工事は進めるような形というのは取られるんですか。

【事務局】 それは、実はずちの局のほかの部署がこれから着工するみたいでございませうけれども、当然あそこの部分は国交省さんの生態系保持空間という多摩川にとっても重大な、重要なところですし、市としても環境に配慮した中で、十分そこは考慮してやると

いうお話は聞いています。

【竹本委員】　　うちのほうで審査をやっていますので、当然極力影響がないようにという事で、例えば橋脚の位置とかも川崎市さんのほうで配慮した形になっています。

【佐藤委員】　　考えられていると。分かりました。ありがとうございます。

【事務局】　　なるだけ脚の数がなくて、突起物がないような橋を考えているんだみたいな話をちらっと聞いたような気が。

【加藤委員】　　次年度の話をしちゃっても大丈夫なんですか。

【鈴木会長】　　いいですね。

【事務局】　　はい。

【加藤委員】　　1つ、私、さっきの事業報告でも触れたんですけども、今回新実施のやつがあるんですけども、これを全体で横串するような感じで、せっかくやりましたと何年かに一度こんなすばらしい報告書が出たり、途中経過が出るのはいいんですけども、これからは宣伝がすごく大事だと思うんですよ。だから、全事業を通して人を呼ぶとか、どこかと共催するというときに、どういう宣伝をして、どう人を呼んでいくのかとか、結局やったけれども知らなかったみたいな声があると、事務局の皆さんも主催者もすごく残念だと思うんですね。なので、この場がふさわしいかどうか分からないんですけども、多摩川推進プランを新しくやっていくというときに、宣伝とか広報という視点も横串で一本大きく全事業で入れたほうがいいんじゃないかなと僕は思うんですね。それも事務局から、この事業をこれからやるんですけども、これについてはこういう宣伝をしていく予定ですみたいなことをしていったほうがいいんじゃないかなと僕は思います。

この事業報告書の中でも、参加者の推移グラフを入れたほうが良いという意見を言わせていただいて、だんだんよくなってきているんですけども、結局後追いで、当然といえば当然の資料なんですけれども、このプランに対して今後こういう宣伝をしていって、前回よりも多くしたいと思いますとか、こうしていったらいいと思いませんかとか、もっといい意見はないでしょうかとか、そこも逆に市民委員の皆さんは地域に根差していらっしゃるんで、こういうところで宣伝してみましようとか、去年はこういうことをやったみたいだけど、全然知らなかったからこうしたほうがいいんじゃないとか、例えばさっきチラシをお持ちいただいたんですけども、そういうのも配ってみましようとか、ああいうところに置けるよとか、そういう地道な宣伝活動とか、あと、ネットでの配信の仕方とか、いろいろあると思うんですけども、細かいのはこれから検討していただくとして、

言いたいのは、すごくいいことをやっているの、全事業に対して横串で広報とか宣伝という概念をがっちり入れたら、さらにアピール度がすごく高まると思うんですよ。なので、それは私の意見として超強力で推したいところ。

【鈴木会長】 大事ですね。多摩川は売りだという話で、それをどう売り込むかという話と一緒になんだろうと思うんだけど、エレベーターのところでも市の組織図があったけど、シティープロモーションとかそういう専門家がいたりするところがあるわけでしょう。

【事務局】 ございます。

【鈴木会長】 ぜひこういうのを一回相談に乗ってもらって、どう工夫してやると効果があるかみたいなやつをぜひぜひ。

【吉富副会長】 いろいろなプロジェクトがある中で、すごく広報を重点的にやるプロジェクトもあれば、方向として本当に伝えるだけのものもあると思うので、活用を呼びかけるとか、参加を呼びかけるプロジェクトに焦点を当てて、それをまず広報していくとか、最初は一部からやっていくのもいいかなと思います。おっしゃるように、全体で考えていくというのは重要だと思います。

【鈴木会長】 まず、基本としては、これは冊子としてどこにどう配布されるというか、広報されるんですか。

【事務局】 これは、各区役所に配布しまして、そこで手続に来られた方の待ち時間とかにご覧いただいたり、気に入れば持ち帰っていただくような形になります。

【鈴木会長】 どうぞ。

【山下委員】 この前の会議のときにも、発信したい内容は誰を対象にしているか、誰に向けて発信するかというのがとても重要という話をされていて、さっきイベントで小学校にチラシを配ったら来場者が増えたという話があったので、焦点を絞るということが、今後これは誰を対象に発信しているかという広報がすごく大事だと改めて思いました。

【鈴木会長】 そうですね。全体としてと、特化して部分、部分にやるやつと、いろいろな口コミとマスコミの。

【山下委員】 そうですね。あと、市政だよりも結構見ている方が多くて。

【梅原委員】 見えていますよ。

【山下委員】 そうですね。

【梅原委員】 しっかりチェックしています。

【山下委員】 そういう媒体をうまく活用できたらいいなと思いました。

以上です。

【梅原委員】 これはどこへ行けばもらえるんですか。

【事務局】 区役所に。

【梅原委員】 何課に行くんですか。

【事務局】 下の窓口のところによく回覧でいろいろ混ざってしまっているところがあるんですけども、あとは、支所とか、一応ホームページでも。

【鈴木会長】 二ヶ領せせらぎ館に置いてあるとかは。

【事務局】 二ヶ領せせらぎ館や干潟館にも、交流するような館内の人にPRするために、もちろんこちらのほうを幾つか毎年送っています。区役所にも置いたとしても、なかなかそこへ行く機会も少ないというところもあるのかなとは思いますが。

【加藤委員】 前回言った、PDFでホームページとかでダウンロードできるようにも一応するんですよ。

【事務局】 はい。

【加藤委員】 さっき意見が途中だったので、最後に1個だけなんですけれども、バーベキューの件で、本当に無法地帯で、やりたい放題なんですよね。レンタル業者が入ってきたりして。

【事務局】 正直、非常に苦慮しているところではあるんですよ。バーベキューをやっちゃいかんという場所でもないことも確かなので。

【加藤委員】 このプランではできないかもしれないんですけども、そういう根本的な対処はどうでしょうと現場を見た意見として。

【事務局】 分かりました。われわれも、こういう仕事以外に日常その部分というのは非常に悩ましい、いろいろ考えさせられているところではあるんですね。

【竹本委員】 国交省のほうも、業者が丸子のところがバーベキュー場みたいに書いてあったことがあって、それは注意して消させたりということはやっているんですけども、注意してなくなるかという、多分同じところがやっているんだと思うんですけどもね。

【事務局】 朝来てロープを張って、ここはうちの縄張りだからということは、国のほうにも注意していただいて、あと、ホームページ上で丸子橋バーベキュー場だとか、勝手にそう書いているところもたまにあったりして、それは見つけ次第注意しています。イタチごっこという場合もあるんですけども、現実的にはそういう状況というのは正直否めないところですね。だから、今後あそこのエリアをどうしていこうか。ただ、あそこのエ

リアだけというわけでもないんですよ。

【加藤委員】 この場で2年前ぐらいに、皆さんで二子玉の多摩川を現地視察したじゃないですか。

【事務局】 はい。

【加藤委員】 ああいうのを拝見していることもあって、その落差がすごくて。

【事務局】 そういう中で、一応先ほどの看板も、地元の10町会ぐらいと、地元と年に最低1回はバーベキュー対策会議を警察さんとか国交省さんも交えてやって、地元の生の声をお伺いして、どの程度1年間迷惑行為がニュアンス的にあったかとか、今どんな感じですかというのをにらみながら、多摩川沿いに近いマンションで、過去にごみを捨てられちゃったようなところは何カ所ぐらいございますかね、こんなのを作ったら張っていただけますかという形でああいうことをやって、また何か月か後に効果があったかどうか聞いてみようかなと。

そんなことをやりながら、ただ、現実的には、当然加藤委員もご存じのとおり、迷惑行為が一切ないということはないんですけれども、なかなか難しく、誰もが常識を守って自由に遊べるというのが河川敷の本来の姿で、都市公園もそうなんですけれども、規制ばかりでは公園じゃないだろう、キャッチボールをやって怒られちゃうのは本末転倒だと個人的には思っているんで、なるたけわれわれとしても自由な中で何とか塩梅をつけていただけるような方策がないか模索はしつつ、迷惑を受けちゃった人の立場もあって、はたから見ていると非常に煮え切らないようなあれで大変申し訳ないんですが。

【加藤委員】 いえいえ、全然そういうつもりじゃなくて、現場を見た感じで、トラックとか根本的になしにしたら、少しはよくなるのかなという。

【事務局】 現実的には、あそこも駅から近いから、地元の方じゃなくて東京都の若者とかが来てやっているのが多いんじゃないかというのも、地元の反感意識の底にはあるんだろうと思っているんですけれども、われわれは川崎市職員ですけれども、東京都の間だからどうだこうだとも言えませんので、いろいろな中でお知恵を借りながら、長期戦になってしまうような気がしますけれども。

【佐藤委員】 トラックの駐車料金は普通車と同じなんですか。

【加藤委員】 たしか1回500円で同じだと。

【事務局】 大型バスは2,000円ですが、4トンぐらいまではたしか500円で、河川敷なのでいつ水が上がるか分からないので、駐車場の自動開閉器を付けられないんで

すね。あれは一回水をやっちゃうと1,000万円ぐらいかかっちゃうらしいので、人海戦術で1回500円です。

【佐藤委員】 今言われたところで、グレーのところ、例えば場所も取るし、2トンとか明らかにそういう可能性があるんだったら、料金を上げて排除していくような形で、例えば3,000円とか5,000円にしちゃって、明らかにそういうのはだめよという形にするとか、注意で直らない場合はそういう形でやっておいて、寄り付かせない形というのものもあるのかなと思ったんですけども。場所も取りますし。

【鈴木会長】 貴重な意見がいろいろ出てきて、ありがとうございます。現実もそういうところがあるからな。ほかに何か今度は楽しい話はないですか。

【加藤委員】 毎年同じ感じで、全然解決がないまま項目だけが引き継がれているので、たまにはそういう激しい意見もありかなと。現場を見てきました。すいませんでした。

以上です。

【梅原委員】 じゃあ、ホームレス対策は進行しているのかな。自立支援策と書いてあるから、実際に。

【竹本委員】 巡視の際に、市の福祉事務局の方と一緒に年に何回か回っていると思うんですけども、河川敷に住むのに慣れちゃった人は出ていかないんですよ。

【梅原委員】 畑もあるしね。

【竹本委員】 ただ、これは粘り強くやるしかないんで、強制というのはその人の個人の生活の場を奪っちゃって、本当は河川敷というのは生活の場じゃないんだけど、そこはなかなか難しい、強制はできないので。住む場所をいろいろご紹介して、そっちで住めるように自立を促すという地道な努力なんですけれども、それしか今のところは手がないという。なので、少しずつ減っているのはあるんですけども、増えているのもあって、結局変わらないんですよ。今川崎だけじゃなくて、多摩川の京浜の管内だと600人ぐらいいます。人口の推移は昔よりは減ったんですけども、10年ぐらい前から五、六百までキューっと減って来たんですけど、そこからは変わらないですね。去年の数字は少し増えていた、そんな状況ですね。

【齋藤委員】 二ヶ領せせらぎ館の周りに、大きい荷物を背負ってうずくまっている人たちがいるんですよ。そういうときはどうするかという対応の仕方があるんです。僕らはお話しして、すぐ行政のどこどこへ電話するとぱっと車が来て運んでくれますよ。それで、ちゃんと生活指導をしてくれますよ。そういうシステムがあるから、そういうところに乗

っかって指導しないと、ちょっと無理ですね。

【事務局】 私も昔係長だったときに、最近街中の公園にはいなくなったんですけれども、街中の公園のホームレスが主体的に最後の砦として川に行っている経緯があるんですけれども、中にはお酒とかいろいろな形で、大方の方は世間の弱者で、そういういろいろな事情でなっちゃった方がいて、変な方ではないですけれども、そもそも世の中の生活していく上での規則にとられるのが嫌だということで、病院やいろいろな生活指導するような施設に入れても、1週間たつとみんな夜逃げしちゃって、自由が一番というのがあって、相対的な数を減らすというのはなかなか現実的には難しいのかなと。

【梅原委員】 私もこういう人たちを否定しているわけじゃなくて、こういう人たちがいるおかげで多摩川が危険な場所になるのが嫌だなと思っているだけなんですよ。住んでいても構わないんですけど。

【事務局】 われわれ多摩川を管理している者としては、ごみはあまり散らかしてほしくないなとは思ってますけれども、この間の台風の時も、一回きれいにしたのに市民からじゅうたんとかテレビがいっぱい落っこっていると行ったら、彼らは水際によく住んでいるので、水に濡れちゃったブルーテントの中の家財道具を全部野球場のほうに投げ捨てて寄こして、大変な思いをしましたがけれども、それも一つの行政なのかなと思ってきました。

【梅原委員】 石川五右衛門みたいなものですよね。世の中に絶対になくならないと。世に盗人のというやつ。

【鈴木会長】 皆さんからご意見をいただいて、来年に反映すると。さっきちらっと次回はどこか現地に行こうとか。終わってないのに次回の話をするのはあれだけど、この後の次回というのはどういう予定なんですか。

3学期から半年ちょっといないものだから。10月に帰ってきますけど。

【事務局】 会長をはじめ、委員の皆さんのご予定をお聞きしながら、季節のいいときだったら半日ぐらいで、現場で見られるぐらいの資料で現実を、さっきのホームレスとかいろいろな状況も含めて現場を見ながらというのも一風変わってよろしいかなと内々で話していたところなので、また電話かメールで時期が来たらお話しできればと考えております。

【梅原委員】 いいですね。7月ぐらいが多いですか。

【事務局】 7月に第1回会議、2月か3月に第2回会議で年2回というのが例年なん

ですけれども。

【梅原委員】 私も5月、6月は日本にいないので、7月以降なら大丈夫です。

【事務局】 じゃあ、真夏になっちゃうとあれなので、いい時期にまたご連絡差し上げたいと思います。

【鈴木会長】 そのころ、28年度の事業とか立ち上がった事業の代表的なところとか話題になったところは見ることができますよね。

【事務局】 そうですね。事務局で見繕って、こんな感じでいかがですかとできればと思います。

【鈴木会長】 質問じゃないけど、自然湧水がまだあって工事した箇所があったじゃないですか。

【事務局】 1ページ目です。

【鈴木会長】 1ページ目の自然環境に配慮した水辺空間づくりというのは、モニタリングしているのだろうか。ただ単に草が生えましたといっても、放っておけば草は生えるんだから。ここは水が湧いていたところでしょう。その水というのはモニタリングして、前はこのぐらい湧いていたのが、もっと湧いたとか、よく湧いているとか、水質がどうだというのは。

【竹本委員】 私、今分からないので。すみません。

【鈴木会長】 もちろんやっているんでしょう。

【竹本委員】 モニタリングはやっていると思いますけれども、ちょっと今日は。

【鈴木会長】 もちろん。そうですね。

【竹本委員】 そういうご意見をいただいたということは伝えます。

【鈴木会長】 こういうのこそ、自然環境に配慮したといっても、さっきの話じゃないけど数字とかでちゃんとやらないと。草がまた生えたというのは、そんなの放っておきや生えるんだからさ。

【竹本委員】 多分業務で調べるとすると時期が決まっているので、28年4月にできていますので、今年度一回調査しているかもしれないですね。やっていなければ、来年度やるべきだということですよ。

【鈴木会長】 これは、たしか水が湧いているところだったんでしょう。河原に幾つかあるけど。

【齋藤委員】 私の知っている情報だと、左側の図がありますよね。ここは昔というか

工事する前は、人が入れないぐらいの丈の木が生えていた。その間にぼこぼこ湧き出ていた。その周りに小魚がいっぱいいたんだよね。そういう環境をこういうふうにしちゃったから、地元の人たちはまた昔の環境に戻してくださるでしょうねという希望で見えています。

【鈴木会長】 分かりました。

【齋藤委員】 と同時に、僕も3年ぐらい前に京浜の所長さんとここを回ったことがありますが、ここが一番弱いところなんです。だから、今徹底的に工事していますけれども、ちょうど曲がる場所なので、一番弱いところなので、えらい工事ですね。テトラポットのこんなのが何百個かな、バースと敷き詰めて工事をやっていますけれども、昔の面影はないですね。

【鈴木会長】 水さえ湧いていれば、この辺は元に戻る。

【齋藤委員】 戻りますね。

【鈴木会長】 そこだけはどうか。草が生えましたじゃなくて、本当に水が戻っていればいいんだけど、水を切っちゃっていると。

【齋藤委員】 戻ると思います。

【加藤委員】 ここは、今水が湧いているんですか。

【事務局】 一応水が残るような形で、国交省さんのほうもおそらく昔川崎水辺の楽校という関係者のところで調査するようなエリアとして残してしまっていて、それを踏まえながら、国交省さんのほうで湧水が残るような護岸の整備をしていただいたというところになります。それで、去年からやったばかりなので、まだ裸地のような形になっていますけれども、今年度もまだ引き続き工事が続いて、二ヶ領せせらぎ館のほうに向かって少しずつ工事しておりますので、今後のモニタリングじゃないんですけども、段階を踏んで紹介した手前、まだ草木というレベルの話になってしまったので、今後は具体的な話をもう少しできればと思います。

【加藤委員】 僕はこれがすごく気になって、正直言ってこの3つの写真を見てよくなっているように全く見えないんです。それで、ごまかすという意味じゃなくて、湧水が今ありますかと聞いたのはそこなんですけれども、やる前の写真じゃなくて、今少し水が湧いているんだったら、湧いている水を拡大して、昔はここに魚がいましたみたいなキャプションを入れて、ドーンと1個だけ載せればいいと思うんですよ。これだと、俺も最初これを見て、何がよくなっているのか、むしろ悪くなっているように見えるんです。

【事務局】 時期が2月なので。

【加藤委員】　　そうですね。だから、それを無理に載っけて事業報告でやっちゃうと、私みたいに思う人間がいっぱいいると思うので、むしろ水が少し湧いているんだったら、また復活しましたぐらいの感じで、きれいな水を載つけたほうがいいような気が僕はするんですけど。

【鈴木会長】　　そうですね。

【事務局】　　もうちょっと見やすいような形で今後は。

【加藤委員】　　そうですね。この比較だと、逆にもったいないような気が。

【鈴木会長】　　これはこれから印刷するから、今みたいなご意見をいただいたら少し修正してよりよくできるわけだよね。

【事務局】　　修正は可能でございますので。

【鈴木会長】　　そうだよ。じゃあ、よりよくするために、ほかに何か皆さんが気がついたことがあれば。

【齋藤委員】　　じゃあ、私のほうからお願いしたいんだけど、いい？　ちょっとオーバーなことを言うと、うちのNPO法人多摩川エコミュージアムなんですけど、最後の9ページの一番上のところで活動しているんですけども、一般の人たち、受付担当の人たちに僕もはっぱをかけているんですけども、多摩川のことで分からないことがあったら全部二ヶ領せせらぎ館に行きなさいというぐらいPRされているんですよ。

だから、場合によっては大卒の人も専門家も来るし、あるいは研究生も来るし、小学生も来るし、いろいろな人が来るので、幅広い知識を持ってないとできないよということで今勉強しているんですけども、この文章は、情報発信は分かるんだけど、防災とか自然環境とか歴史や文化、全部ここに書いてもらいたいですよ。

これだけ見ると、情報発信センターですということで、環境学習なんかやってないじゃないとか、歴史や文化も関係ないように取られるので、これだけ取ると二ヶ領せせらぎ館は何をやっているのと思われちゃうので、下の文章をそのまま入れちゃうとおかしいかもしれないんですけども、いずれにしても、学校は今大体十五、六校、1,000人ぐらい来ていますから、あるいは地域の団体さんも20団体ぐらい勉強に来ていますから、そういう自然環境学習、それから歴史の好きな人は歴史のことで来るし、鳥の好きな人は鳥のことで来るし、魚の好きな人は魚のことで来るから、二ヶ領せせらぎ館へ行くと何でも分かるという印象づけをどこかがしているんですね。僕らもそれは非常にありがたいので、それに対応しようと思っているんですけど、そのぐらいの情報発信をしているというこ

とをPRしてもらいたい。よろしくお願いします。

【吉富副会長】 この2つの施設は、何か役割分担とかテーマの違いみたいなものがあるんですか。例えば防災面が強いとか、自然を扱って環境学習の面が、そういう行事が多いとか。

【齋藤委員】 僕の知っている範囲で申し上げますと、水防センターというのは干潟になっちゃうんですね。引き潮になると、浜辺に降りられるんです。カニとかと遊べるんです。アサリやシジミも採れるんです。すごくいい環境なんです。だけど、二ヶ領せせらぎ館は、怖くてとてもじゃないけれども多摩川の中に入れないです。

【吉富副会長】 どちらかという、建物の中でいろいろやる。

【齋藤委員】 建物の中で教えるしかない。あるいは、遠くから見るしかない。

【吉富副会長】 じゃあ、それぞれその中で活動している写真とか、外、フィールドを見せるような、イメージさせるような写真を添えれば、文章で全て書かなくても。

【齋藤委員】 そういうのはそれなりに情報発信していますからいいんですけども、大きく違います。

干潟館と二ヶ領せせらぎ館は全然環境が違うんですね。

【吉富副会長】 そうですか。

【齋藤委員】 だから、そういう点で集まる人も違います。

【事務局】 こちらのほうで齋藤委員が写真でも写っていますが、プランの26ページを見ていただくと、環境学習の関係のところのプログラムとなっているんですけども、こういった小学生をお呼びしたり、これは管内の様子をいろいろと載せております。

【齋藤委員】 そうなんだけど、これだけ見ていると誤解されちゃう。

【事務局】 ここの部分についてはもうちょっと写真を。

【鈴木会長】 この文章とこの建物の写真だとね。

【事務局】 まずアクセスする面での場所かなとは思いますが。

【吉富副会長】 売りというか、ポイントが分かるように。

【齋藤委員】 それから、ついでで申し訳ないんですけども、いいですか。A3のこの資料以外に、二ヶ領せせらぎ館でいろいろなことをやっているんですが、それはここには触れてないからいいんですけども、ここに触れている内容だけ申し上げますと、2枚目の45番、渡しの復活というのがあるんですけども、これは中原区のほうは丸子の渡しで、高津のほうは二子の渡しなんです。多摩区もやろうよという動きがあります。多摩

区は、菅の渡しをやるかというのを計画しています。これは3つとも漁協の人たちが漁協の船で渡しをやるので、漁協のバックアップがないとできません。

【鈴木会長】 船は漁協で持っているんですか。

【齋藤委員】 ええ。だから、漁協の船で3カ所をやるという計画が今あるようです。具体的にいつやるかは分かりませんが、今その辺の論議をしているようで、もし多摩区でやるとしたら、二ヶ領せせらぎ館も全面的にバックアップしようと考えています。

それからもう一つ、49番、二ヶ領用水なんですけれども、今は多摩川の話なので、二ヶ領用水の話は避けているんですけれども、あえてお話させていただくと、二ヶ領用水沿いには桜がものすごいですね。今60年なので、一番見どころなんです。これを育てている人、周りをお掃除している人、いろいろな団体がいるんです。そういう人たちみんなで手をつないで、二ヶ領用水の一斉清掃をやるという動きをしています。その活動も僕らはバックアップしているんですが、大学生なんかも含めて地域の人たちを巻き込んでやるということで、担当は河川課になるんですよ。

【事務局】 そうですね。

【鈴木会長】 緑の基本計画にそういうのが入っているもんね。

【事務局】 そうですね。

【齋藤委員】 河川課のほうに少しねじを巻いて、バックアップしてくださいというお願いをしているんですが、この席の多摩川プランの活動の中の一つとして取り上げて、バックアップしてもらいたいと思うんですが、一斉清掃は、今資料を持ってこなかったんですが、9月に予定しています。取り入れ口から鹿島田までそれぞれ活動している団体がありますので、そこをつながって何かやろうと計画中です。一応その辺は河川課に確認を取って、バックアップしていただけないか。

【事務局】 今後、そういった情報をいただいたというので、河川課とはやりとりさせていただいて、われわれは照会をかけて、来たものしか情報を得られないので、齋藤さんからいただいた意見があれば、話をできるかなと。

【鈴木会長】 前もってはね。

【齋藤委員】 多摩川の一斉清掃は1番目のページの4番に載っていますので、多摩川の一斉清掃はやるんですが、二ヶ領用水の一斉清掃というのはやってないですね。部分的にはやっていますけどね。今度それをやるという。

【鈴木会長】 二ヶ領用水を生かしたまちづくりの推進はもうあるから、それはね。

【齋藤委員】 その中の一環としてやりたいなということで、今活動を続けていますけれども、一応情報としてよろしくをお願いします。

すいません、以上です。

【鈴木会長】 山下さんからご発言が。

【山下委員】 すいません。記載方法で、誤解を招くような受け止め方にされてしまうので、今訂正してもらいたいの、2ページの川の安全教室なんですけれども、本当は9月22日に行く予定だったんですけれども、天候が悪く、急遽10月2日にやることになってしまったので、広報ができなかったため、人数が30人しか集まることができなかったんですけれども、実際は100人ぐらい集まるイベントを行ってまして、この記載の方法を今後考えていただけたら助かります。

あと、先ほどの丸子の渡しで、なぜここにアユの写真があるのかと思われるので、渡しがつなぐ地域のふれあいということで、物産とかもあつたりとか、いろいろなイベントがあつたので、そういう内容も記載していただけると、より深く親しみを持てると思います。お願いします。

【鈴木会長】 今回の川の安全教室というのは、9月にやろうとしたときは申し込みが100人以上あったわけ？ 天候が悪くて変更しちゃったものだから、急に減っちゃったという。

【山下委員】 事前申し込みとかではなくて、当日参加のイベントを行ってまして、何人来るのか分からないんですけれども、大体100人ぐらい集まるんですね。そのとき天候が悪かったので、急遽10月2日にやろうという話になったので、事前にお知らせができなかったの。それでも30人集まったんですけれども、そういう経緯があつてのこの記載だったので。

【吉富副会長】 山下さんが後半におっしゃった写真のことですけれども、キャプション、説明がちゃんと付いている写真と付いてない写真があるので、あまりごちゃごちゃしてもあれですけれども、もし可能なら、アユの塩焼きもそうですけれども、付けられるものにはどういう状況かとか付けてもいいのかなと思いますね。

【梅原委員】 あと、二ヶ領せせらぎ館は行ってみたいんですけれども、住所は分かるんですけれども、電話番号はここに記載しちゃだめなんですか。

【齋藤委員】 書いてないですね。

【梅原委員】 何でも質問してくださいと言われたけど、どうやって質問すればいいの

かなと。

【齋藤委員】 じゃあ、受付の電話番号を申し上げます。

【梅原委員】 いや、これは書いちゃいけないんですか。

【齋藤委員】 書いてないですね。

【梅原委員】 まずいんですか。

【齋藤委員】 いや、構わないですよ。

【事務局】 入れておきます。

【鈴木会長】 所在地、アクセス、連絡先もね。そうですね。

【梅原委員】 下車したはいいいけど、どっちに行けばいいのとか分からないといけないので、一応地図は見て行きますけどね。

【齋藤委員】 ぜひ遊びに来てください。さっき加藤さんがおっしゃったように、どこの団体がやっているなんていうことは、これは改版するんですか。それとも付け加えてまた入れるんですか。もうこれ以上いじらない。

【事務局】 できる限り分かるものに関しては入れていきたいと思っています。

【齋藤委員】 入れていきたいわけですね。

【事務局】 はい。

【齋藤委員】 そうですね。入れていってください。

【鈴木会長】 よりよくするためのご意見がたくさん出ましたけれども、ぜひ頑張ってください。

【加藤委員】 最後にいいですか。

【鈴木会長】 どうぞ。

【加藤委員】 目次のところにこれがあるじゃないですか。解像度がいまいちなので、ちゃんとされるんでしょうねというのと、アユの話ばかりしちゃって申し訳ないんですけども、アユの話とか水の安全とか、こういうイベントをやっているんだと場所とか一応書いてあるんですけども、丸子橋とか等々力周辺とかあるんですけども、例えば水辺の安全事業だったら①とかにして、それがこっちに対応されて、ここでやっていますみたいな、簡単なイベントマップみたいな対応にすれば、うちの近くでやっているんだとか。それぐらいだったら、数字でできるじゃないですか。

一応カラー刷りでしょう。なので、カラー刷りでちゃんときれいにこの流域ではこういうことをやっています、緑だったら1番の自然の何とかなので、ごみ拾いはこの流域でや

っています、緑の1とかいう感じにすれば、僕らも市民委員の皆さんも先生方も、あのイベントはここでやっているんだよとか、これ一枚で説明できるじゃないですか。何月とか書いてあると、一枚ですごくいい感じになるんじゃないかな。ここに解像度の低いやつを入れるよりは、解像度の高いやつで、かつ、こっちの事業と連動して、ここでやりましたみたいな形で番号を振り分けるとかすれば。どうですか。

【齋藤委員】 知りすぎちゃっているから、そこまで気がつかなかった。

【鈴木会長】 今の話は、ここでやっているやつを多摩川の地図の中にやるたびにちょこちょこポイントで入れていけば、見た中で、1年後か2年後には全体図がプロットされるみたいなイメージになっているんじゃないの。そのピックアップしたやつが今みたいな。あまり宿題を与えすぎると、渡辺さんが自分の休みとやれる仕事量との関係を一生懸命測っていますけれども、僕と目と目が合って、今の目線では頑張ると感じました。大丈夫？

【事務局】 頑張る気力が湧いてきました。

【鈴木会長】 その一言を聞いたから、今日の会議は成功裏に終わったということで、そろそろよろしいですかね。大変かもしれませんが、あとは事務局のほうでよろしくお願いいたします。

【事務局】 ありがとうございます。本日は、鈴木会長をはじめ委員の皆様方の活発な議論と貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。事務局といたしましては、本日いただいた意見をしっかりと受け止めまして、多摩川プランに基づく施策の推進をさらに進めてまいりたいと思っております。

次回の推進会議ですが、また時期が参りましたら事務局よりご案内申し上げますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして平成28年度第2回川崎市多摩川プラン推進会議を閉会させていただきますと思います。本日は、お忙しい中本当にありがとうございます。